

みんなの らいふ

前橋市自立支援協議会広報 みんなのらいふ 第24号

発行日 令和2年9月1日

発行元：前橋市自立支援協議会

問い合わせ：前橋市障害福祉課 前橋市自立支援協議会

広報啓発部 事務局

電話 027-220-5711

FAX 027-223-8856

URL https://www.city.maebashi.gunma.jp/kenko_fukushi/4/10/1/11867.html



みんなのアーツ(作品紹介)



【作者】M.T.さん 【作品名】とりの親子



題字・作品を募集中

本紙に掲載する題字や作品（イラスト、挿絵等）を募集しています。あなたの作品で本紙に彩をそえていただけませんか。詳しくは事務局（連絡先は表紙に記載してあります）へお気軽にお問い合わせください。

次回の作品応募締切日は11月13日（金）です。





(取材日：令和2年5月28日)



【プロフィール】

沼田市出身。40歳。2歳のときの交通事故で頸椎を損傷し、車椅子生活になりました。

2019年「車椅子ソフトボールワールドシリーズ in カンザスシティ」日本代表捕手（キャッチャー）。国際部（日本・アメリカ・ラテンアメリカの総当たり）優勝。全米選手権（アメリカ国内17チームと日本チームの合計18チームによるトーナメント）5位。今年の日本代表にも選ばれています。

現在は都内の「EY Japan」にアスリート職として勤務。平日午前9時から午後5時までトレーニングに励んでいます。スポーツを通じた広報活動も業務内容なので、今回のインタビューも仕事の一環です。

【車椅子ソフトボールを始めたきっかけ】

もともとは車椅子バスケットボールをしていましたが、3年前にバスケ仲間からソフトボールに誘われ、競技を始めました。

【車椅子ソフトボールをやっていて良かったこと・大変なこと】

良かったのは、日本代表に選ばれて世界で活躍できたこと。バスケをしていて、アメリカのNBAが大好きなので、憧れの地に行くことができて嬉しかったです。ものの見方と価値観が広がりました。

大変なのは、体調管理です。室内競技のバスケと違い、ソフトボールは屋外で行うため、気温と日差しとの戦いです。私は頸椎損傷の影響でまったく汗をかかないため、全身に霧吹きで水をかけながら競技しています。実際、昨年は大会中に熱中症になってしまいました。小まめな水分補給と休憩が重要です。

【車椅子ソフトボールの特徴や見どころ】

右ページにも書かれているとおり、障害者、健常者、性別、年齢で分け隔てなく、誰もが一緒に楽しむことが魅力です。私の所属するチーム「グリッターズ」にも健常者が所属しています。もちろん女性もいますし、小学生と中学生のプレイヤーだっていますよ。実際の大会で他チームを見てみても同じです。

見どころは、カバーリングの動きです。例えば、一塁に送球するときは、送球がそれたときに備えて、捕手の私がカバーに入ります。また、ホームベース上で走者をタッチアウトにするときは、握力の弱い私だとボールをしっかりつかめないのが、ピッチャーがホームベースに入り、私が送球がそれた際のカバーをします。このカバーリングがスムーズに決まったときは、皆さんも本当に興奮すると思いますよ。

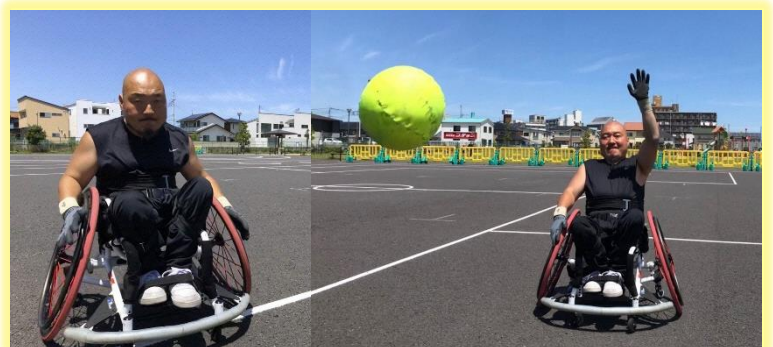
【今後の目標】

まずは来年のワールドシリーズでの連覇。そして、2028年の「ロスアンゼルスパラリンピック」で車椅子ソフトボールが正式種目として採用され、そこに選手として出場することが目標です。

【皆さんへのメッセージ】

自分の可能性がいつどこで花開くかわかりません。私も30代後半で競技を始め、日本代表になることができました。障害を負う前はスポーツで道が開けなかったけれど、パラスポーツで成功したという人もいます。

夢や希望を持ち続けて、毎日コツコツと頑張ってください。積極的にチャレンジしてみてください。



【2019年車椅子ソフトボールワールドシリーズ】日本代表

「車いすソフトボール」
ってどんなスポーツ？



障害の程度に応じて、クラス分けされていて、各選手の持ち点は0点～3点。合計21点以内で10人の出場選手を決めるんだ。

性別も年齢も関係なし。3点の選手には健常者も含まれるから、車椅子に乗りさえすれば、誰でも一緒に楽しむことができるよ！

日本ではまだ歴史が浅いけど、アメリカでは40年以上前から大会が行われているんだって。2013年に発足した「日本車椅子ソフトボール協会」も、パラリンピックの正式種目に選ばれることを目標に、車椅子ソフトボールの普及・発展に取り組んでいるよ。今後も車椅子ソフトボールに注目だね！



障害者週間に展示する作品を募集します！

前橋市自立支援協議会・前橋市では、障害福祉の啓発事業の一環として、障害のある人もない人も共に出会い、交流できる場として「みんなのフェスタ」を毎年の障害者週間に合わせて開催しています。

今年は新型コロナウイルスの流行により、残念ながら「みんなのフェスタ」は開催できませんが、障害者週間の期間中に作品展示の場を設けたいと考えています。

絵画や貼り絵など、日頃から取り組んでいる活動を発表する場として、作品を出展してみませんか。



障害者週間作品展

【日時】令和2年11月27日（金）～12月4日（金）

午前8時30分～午後5時15分

【場所】前橋市役所 1階 ロビー

前橋市大手町二丁目12番1号



昨年の様子（設置作業中）

【募集作品】①パネル展示が可能な作品（絵画や貼り絵など）

②幅40cm×奥行40cm以内の立体作品（粘土や張子など）

※今年度制作された作品でなくても出展可能ですが、昨年度以前の「みんなのフェスタ」に出展されたものはご遠慮ください。

【申込方法】前橋市障害福祉課にご連絡いただいた方に申込書を郵送いたしますので、必要事項をご記入のうえ、ご提出ください。

〒371-0014

前橋市朝日町三丁目36番17号 前橋市保健所1階 前橋市障害福祉課

電話：027-220-5711 FAX：027-223-8856

【申込締切】令和2年10月30日（金）



「企業向けセミナー」を開催します！



就労支援部会では、障害者就労を支援する機関（就労移行支援事業所やハローワーク等）と共同し、障害者雇用を検討している企業を対象に「企業向けセミナー」をオンラインにて開催します。事例報告等を通して、企業と福祉の相互理解を深め、障害者雇用の促進を目指します。

※下記は発行日時点での予定となります。新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、内容を変更する場合があります。

- 【日 時】 令和2年11月19日（木）午後1時30分～
 【開催方法】 リモートアプリを活用したオンライン開催
 【内 容】 講 義：障害者雇用の仕組みと雇用の現況について
 DVD 視聴：障害者雇用の事例や実際に働いている様子
 事 例 発 表：就労移行支援を経て一般就労に至ったケース



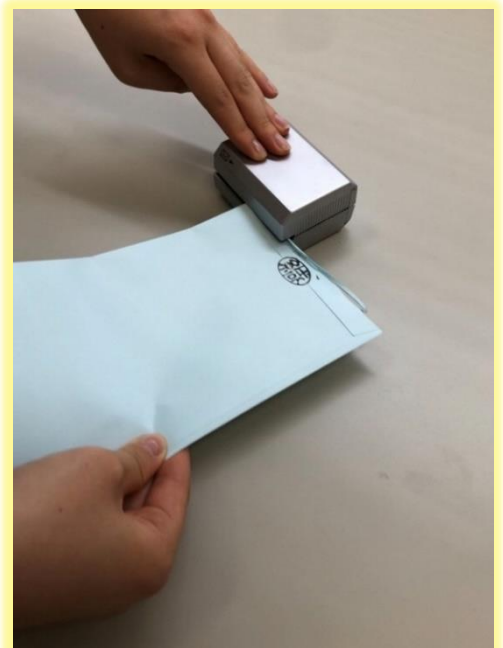
これな～に？

【電池式レターオープナー】

封筒を開けるのに苦労したことはありませんか？手指の力が弱い人や視覚に障害のある人にとって、素手やハサミ・カッターでの開封作業はとても大変です。

そんなときは、この「電池式レターオープナー」の出番です！封筒を入れれば自動的にスイッチが入り、回転刃が封筒を押し出してくれるので、手は添えるだけ。簡単に開封できます。これがあれば、粉薬やお菓子の袋を開けるのにも便利です。

小さいものなら、千円台で購入できるよう。



編集後記

残暑厳しい毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか。

季節を振り返る余裕もないほど新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、不安な日々を過ごしています。早い収束を願いながら、あっという間に9月に入りました。

広報啓発部会では、12月に開催予定だった「みんなのフェスタ」について、協力団体の意見も尊重しつつ、やむを得ず中止といたしました。会場内での3密が避けられず、参加者の安全を第一に考えた末の苦渋の決断でした。楽しみにしていたイベントだけに残念です。

ただ、障害者週間に合わせて、別会場で作品展を計画しています。詳細は本紙の3面に掲載しておりますので、作品応募とご来場をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の心配ばかりでは、気分も沈んでしまいます。

表紙の明るく微笑ましい「とりの親子」を見て、癒されてください。

（石田 ヨシ子）

